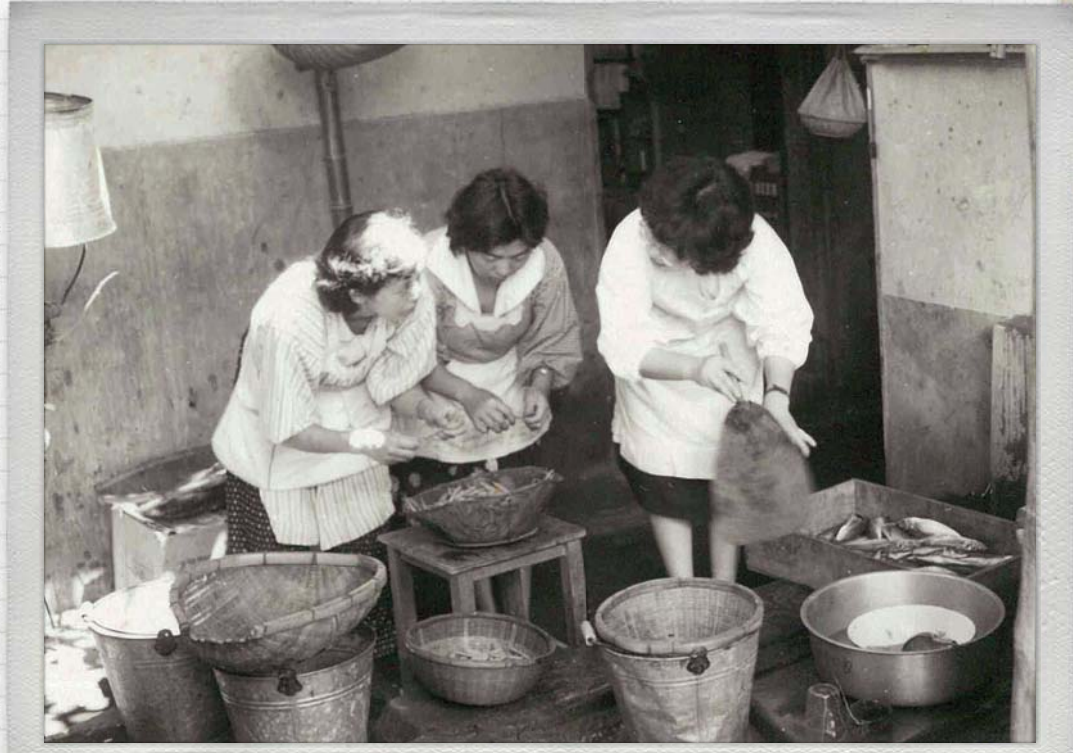




蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 38

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】



懐しの1枚

農繁期の共同炊事  
昭和35(1960)年・財田町

農繁期は短期間に仕事が集まり、特に農作業と炊事を受け持つ女性の労力は大変なものであった。それを省くために、集会場などで共同炊事を行い、各家庭が集まって食事をしたり、料理を各家庭へ配ったりするなどの工夫が施された。

「思い出のページ」

財田町で共同炊事を経験した河野トモ子さん(78)は当時をこう振り返ります。

「今は田植え、稲刈り、乾燥までを機械で行うことができますが、当時の農家はその全てが手作業で重労働。農繁期は特に忙しく、毎食が同じおかずの『ぼっかり食』や、ごはんは醤油をかけただけのものをかきこんで田仕事に戻る人もいたり、料理に手間をかける余裕はありませんでした。この状況を改善しようと、農家の人たちの衣食住など生活環境を見直し、私たちに多くの知恵を教えてくださいました。生活改良普及員の人たちでした。共同炊事もその一つですね。

私の地区では、農家が自分の畑でとれた野菜を持ち寄り、普及員が献立を考えました。その日に必要な食数を世帯ごとに注文を受け、調理は非農家の人たちにお願していました。

写真にあるように、栄養のバランスを考え、魚もメニューに取り入れていましたよ。左の2人は何かをむいていますね。エ

「彼は高価だったから空豆かな」と写真を指さしながら当時の様子を語ってくれました。

「他にも、かまどの改善や保温性の高い『わら布団』の普及など農家の女性たちの労力を軽減させ、生活上のための知恵を提供してくれた普及員の先生にはとても感謝しているんですよ」



**編集 後記**

先日、たくさんの方の市民の皆さんとお会いすることがありました。三豊市を元気にしよう、さまざまな分野で活躍している人ばかり！皆さんのすごいバイタリティと情熱、そして、郷土愛がひしひしと伝わってきて、圧倒されながらも、10年を迎え次のステージへと歩み始めた三豊市にとって、「市民力」は全国に誇る強力な力だと感じました。

これからもたくさんの方の「市民力」を追っていきます。お会いした皆さん、本当にありがとうございます。